

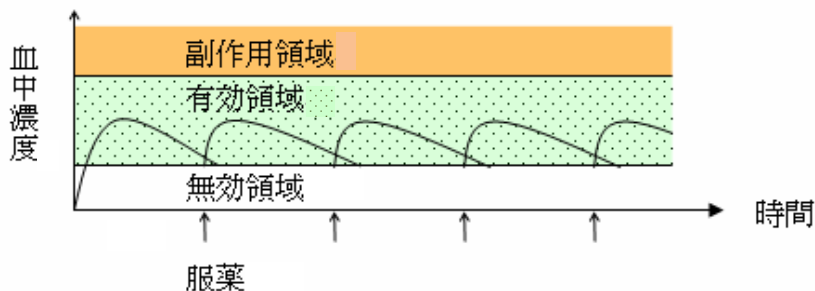
★くすりと上手につきあう★

今日は秋晴れの日、久しぶりに息子夫婦と孫を連れ動物園へ出かけました。電車の中でハッと気がつきました。朝の薬は飲んだのですが、昼の分を持って来るのを忘れたのです。さあ、あなたならどうしますか？

この場合、病状や薬の種類によっても違いますが、どうすればよいかを説明する前に、薬が体の中でどのように効いているのか知っていただきたいと思います。

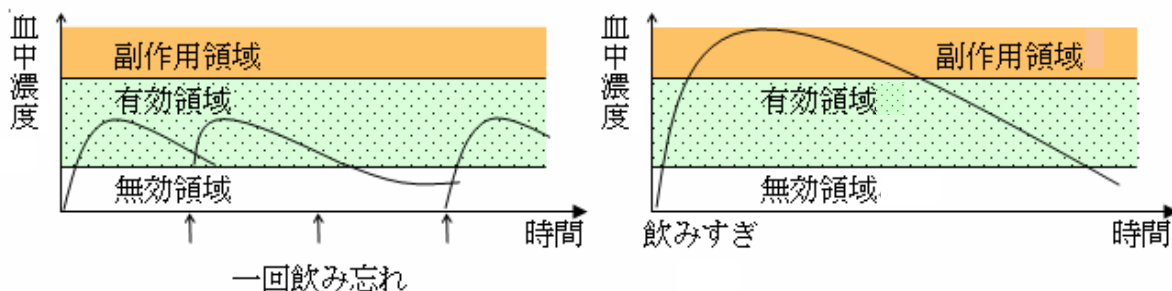
【血中濃度】

口から入った薬は、胃腸から吸収され肝臓を通して血管に入り全身に運ばれ効果を現わします。この時の血液中の薬の濃さを血中濃度といいます。下の図のように、決められた量の薬を決められた時間に飲むと血中濃度が丁度良く効く所へ行きます。一方薬は体にとって異物ですので、分解して体の外へ排泄しようとし、そのため時間と共に効果が落ちてきますので、薬を補充してやらなければなりません。



この様に、有効作用を維持するため決められた用法（1日何回）と用量（1回何錠）を守る必要があるわけなのです。

【薬の飲み忘れ 飲みすぎ】



さて、飲み忘れて手元に薬が無い場合、まずあわてないでどの薬をどれだけ間違えたのかを確認して下さい。

……そして、いつも保険証とお薬手帳を持っていたので かかりつけ薬局へ電話したところ、薬剤師があなたの薬歴簿（薬のカルテ）を見ながら「この場合は昼の薬を飲まないでも血中濃度が夕方近くまで有効領域にあり無効領域に下がる時間はわずかであり、すぐ症状が変わることは無いのでご心配なく」とのことでした。「帰ったら夕方の分をいつもの通り飲んでおけばよい」と言われホッと一安心でした。

★しかし薬と症状によっては対応が変わりますので必ず相談して下さい！

くすりと上手につきあうために

- ① お薬手帳を忘れずに
- ② いつもの薬を3～5日分多く持つ（災害や緊急時用に）
- ③ 気軽に相談できる「かかりつけ薬局」を持つ